

第2回御堂筋完成80周年記念事業推進委員会 議事要旨

1. 日時：平成29年3月24日（金）10:00～12:00
2. 場所：大阪市中央公会堂 第6・7・8会議室
3. 出席者：別紙「第1回御堂筋完成80周年記念事業推進委員会 座席表」のとおり
4. 議事要旨
 - (1) 開会（事務局）
 - (2) 委員長挨拶（吉村大阪市長）
 - ・【別紙1】
 - (3) 出席者照会（事務局：別紙「座席表」）
 - (4) 第1号議案 御堂筋完成80周年記念事業 平成28年度決算見込みについて
原案どおり可決
 - (5) 第2号議案 御堂筋完成80周年記念事業 平成29年度予算（案）について
原案どおり可決
 - (6) 第3号議案 御堂筋完成80周年記念事業推進委員会事務局規程の変更について
原案どおり可決
 - (7) 第4号議案 御堂筋完成80周年記念事業 実施計画（案）について
原案どおり可決
5. 意見交換（概要）
 - ・【別紙2】
6. 閉会

(市長あいさつ)

皆さん、おはようございます。

今日は本当にお忙しい中、お集まり頂きありがとうございます。第2回御堂筋完成80周年記念事業推進委員会を開催することができましたので、一言ご挨拶を申し上げます。

今日、皆さんに提案させていただく実施計画ですが、去年の11月に開催しました1回目の推進委員会、その後12月、2月に実施しました2回の実行委員会で、様々な貴重な意見が出され、事務局案として取り纏めたものです。今日はその事務局案について事務局から説明して頂きますが、また、皆さんから活発なご意見を賜りたいと思います。その中で記念事業の実施計画を決定していきたいと考えております。まず、5月11日にシンポジウムを開催し、それと連携して実施する御堂筋の一斉清掃や、記念式典が皮切りになると思っています。私自身は今回の80周年記念事業で、何をしたいかという、この御堂筋の将来像である「見える化」を80周年記念事業でやりたいと思っています。もちろんシンポジウムも大切ですし、式典や様々なイベントも大切ですが、一過性のものにするのではなく、御堂筋の今後の将来がどのようになっていくのかをしっかりと「見える化」する。そしてそれを単に議論するのではなく、肌で感じ取れるような事業であり、市民のみなさまがキャッチできるようなことをやりたいと思っていますし、その将来像をここで確定していきたいと思っています。ロゴマークも公募の中から選ばれました。私もこれに投票させていただきましたが、なぜこのロゴに投票したかという、6車線が未来に向かって走っているというイメージで、未来の「見える化」をやるべきだと非常に強いイメージを持っているので、それを端的に表しているのかなと思ったからです。ですので、今回の80年の記念事業においては、まさにこの「見える化」を図っていきたい。特にこの御堂筋というのは関一市長が当時の色々な批判や何を考えているのかと言われていた中で、元々6mであったのを40m級の幅員、大阪の将来を見越してこの御堂筋を作られたということが、大阪の大きな財産になっていますので、これをリスペクトして活かしつつ、これを機に、未来へ向けて今度は私たちが何十年後かの大阪の人たちへ良いもの作ってくれたと言ってもらえるような「見える化」を図っていきたいと考えております。そんな中で皆さまの色々な意見をお聞きして、官民一体で方向性、「見える化」を定めていきたいと思っています。皆さまにいろいろな意見を賜りたいと考えていますので今日はよろしく願います。

◆ 御堂筋まちづくりネットワーク 本多氏

お願いしたいこと等を言わしていただきますが、将来ビジョンの関係では、中央大通りからさらに北側の淀屋橋の駅までについて、今回は、ぜひ緩速車線の閉鎖についてのスケジュール等をご検討していただき、早めに決めていただきたいと思っています。北側のエリアの特徴としては、ビルがセットバックして立っている場所がありそのセットバックの空間を活かしたり、自転車の使用量が北側は少ないので自転車専用道は作らず、ゆったりとした空間づくりを検討していただきたいと思っている。またスポットとして、セットバック空間と一体となった広場空間の確保が可能であるので、コンサートやオープンカフェなどを地元で運営出来ればと考えております。広場空間以外の部分は狭い道になりますが、例えばニューヨークのハイラインのように豊かな植栽の緑道、ベンチなどを備えて、そしてすでに設置していただいている彫刻等の親和性のある空間を活かしたインスタレーションができ、訪れた人をもてなすことの出来る名所にならないかと色々検討をしています。側道閉鎖については、船場エリアは縦の道だけでなく、横の道の関係もあり、船場エリアの連合会、連合町会などの地元調整も御堂筋まちづくりネットワークがしっかりと責任をもって進めていきたいと思っておりますので、計画の方をしっかりと一緒に決めさせていただけたらと思っています。それから 80 周年のイベントについてですが、こちらについてはセットバックの空間と歩道と側道を一体として使った広場空間の可視化が出来ればと思っています。それが将来像の見える化という形として一度実験できれば将来のイメージ、あるいは将来像に関する課題が明確になると思うので、ぜひ今年の 80 周年のイベントで実現して頂きたい。ただ、あまりにも短期間だけのイベントでは評価は難しいと思っておりますので、出来るだけ長い期間、広場空間を使ったイベントが出来るような形にしたいと思っています。緩速車線の長期間の閉鎖が経済上難しいのであれば、先ほどお話のありましたパークレット整備を実現させ、新しい形の御堂筋の活用を進めていただきたいと思っておりますし、全国から視察者が来て頂けるようなスタイリッシュなパークレットを整備して、御堂筋のブランド向上を図って頂きたいと思っています。出来れば、秋にはそういった形で進めて頂けるような形で協議させて頂ければと思います。また、運営についても官民一体となって連携しながら進めさせて頂けたらと思います。パークレットを整備して半年間は社会実験をして、賑わいの可視化、交通処理、荷捌きスペースの問題等を検証して、もし評価が良ければそのまま継続して進めていけたらと考えています。以上が御堂筋まちづくりネットワークの思いでありますので、よろしくご検討をお願いしたいと思っております。

◆ 御堂筋・長堀 21 世紀の会 成松氏

私どもの会からも希望を申し上げさせていただきます。私どもの会で色々な方にアンケート調査をやらしてもらった結果としまして、御堂筋に何がほしいかというような項目に関して圧倒的に多かったのが、御堂筋の歩道上に案内所がほしい、あるいはトイレが欲しいというような 2 つの項目が非常に多数を占めております。トイレに関しては、インバウンドの方がたまたまネットで、このビルのこのトイレがきれいで良いという情報が流れると、ある日

突然旅行者の方が、どっと入ってきてトイレを使用なさるということで、ビルの人たちがその間トイレが使用出来なくなるということが起きているということ、心齋橋筋商店街の方からも言われていますし、御堂筋にぜひトイレを作ってほしいというようなお話があります。従いまして道路上に案内所やトイレを作っていただければという強い思いがあります。こういうことに関しましては、過去から私どもは、是非お願いしたいとってきたのですが、なかなか法律上の問題があり、やりたいのだけれど前に進めないというようなお話を伺っておりますので、例えばですけどそういうことを突破するひとつの手法として「御堂筋人間中心特区」というような制度をつくることによって、具体化させていくような方法もあるのかと思っています。方法については行政の方にお任せするのですが、いずれにしても最終的にはそういう施設があることが好ましいと思っております。2つ目は、せっかくこれだけ盛り上がった80周年記念事業ですので、将来に残るようなモニュメント、世界に発信できるようなモニュメントを御堂筋のどこかに作りたいと思っている。私どもの希望としては御堂筋の中で一番大きな交差点である新橋交差点、ルイヴィトンがあるところですが、そこに世界に誇るようなシンボルモニュメントを作っていただければ、非常にうれしいと思っております。シンガポールに行ったら皆さんご存知のマーライオンですとか、それに限らず世界中、日本中でいろんな撮影スポットがありますが、そこが一つの撮影のスポットになるような、そういうものを御堂筋上で作るということで、モニュメントをつくりたいと思っています。3つ目にそういうことを実現していくために官と民が力を合わせて将来の大阪を築いていく、将来の御堂筋を築いていくという強い思いのもとに進めていくのですが、そのお金をいざ集めようというときに、その集め方が非常に大切になってくると思います。うまくやれば大阪ですから、非常に多くの賛同者が出るだろうけれども、やり方を間違えると、ごく一部の方からお金が集まっただけで、額的にもたいしたことがないということになりかねない。そこで、著名人による仮の名称ですが御堂筋のサポーターズクラブみたいなものを作って、例えば安藤忠雄さんや葉加瀬太郎さんですとか大阪に思い入れを持った著名人の方達を軸としたサポーターズクラブを作って、それを民間も一緒になって応援しながら、1つは御堂筋の情報発信を世界に向けてやっていただくこと、2つ目には経費などお金が必要になった時にお金集めも手伝っていただくことをやっていきたい。そこで民の力を合わせてやれば、かつて安藤忠雄さんが川岸に桜を植えようとしてご提案をいただいて2億円目標でお声掛けを行ったところ、3億円集まったというようなお話を聞いておりますので、そのようなことも含め御堂筋を大阪のシンボルとして作り上げ、これを世界に発信しようというような働きかけのきっかけをサポーターズクラブでやっていただけると効率的でいいのではないかと考えています。当会と致しましては以上3つをご提案させていただき、これを実現の方向に向けて動かしていただけると大変ありがたい。これが将来の若者たちが大阪に根づく原点の一つにも成り得るのではないかとということも含め、優秀な大阪の若者が東京や海外へ流出しないよう、御堂筋を中心として色々な新しい事業をどんどん展開させ、大阪から日本の中で東京に並ぶ大阪という位置付けを今後とも確保できるようにそのようにしていただけると大変ありがたいと思っております。

まず1つ目は御堂筋の千日前通りから南海難波駅前までの空間利用についてでございます。

昨年11月、御堂筋の東側の緩速車線を廃止し、道路空間の再編をして頂いた南北約200mのモデル整備区間にぎわいを作り出すために、大阪市の各局のご担当のみなさまとご支援をいただきながら、ここで何かやっていきたいと考えております。例えば、この当会では、委員会と企画委員会とまちづくり委員会というのが並行して走っていたのですが、80周年でこういうことをやっていくということで合同会議を開催し、そこで検討を始めていますほか、元々モデル区間を整備するにあたって、地元の地権者の会であるミナミ御堂筋の会や地元の商店街さんが入っている会がありますが、そことも連携しまして、この秋を目指して何かやれることを考えていこうと考えています。当然、地元の方を中心にここで何が出来るのかというお話をしていきたいとは考えておりますが、例えば個人ビルのオーナーさんや、商店街のお店だけでやっていくことはなかなか難しいのではないかと考えておまして、そういう部分ではミナミまち育てネットワークには、ゼネコンさんや地元の大手の企業が入っていますので、その辺の知見をもとにサポートしていくのが役割なのかと思っております。具体的な賑わい創出に向けた取り組みとしてはコンテナカーやキッチンカーを持ってくるというイメージもありますが、1つは市長にもお話していただいたように80周年を機会にイベントだけではなく、例えば費用をかけずにするのであれば、連動しております難波の駅前広場をイメージしながら、ベンチを置いてみるとかオブジェを置いてみるということで、その空間の活用や今後の御堂筋がどうありたいかの議論を当会の方でしっかりとやっていきたいと考えております。

次に、当会の既存の事業そのものを80周年にあやかり連携していったらどうかという考え方です。

その1つとしては、当会の従来から毎年秋に実施しておりますミナミ地域の一斉大清掃（ミナミべっぴんプロジェクト）がありますが、今年は10月28日実施する予定としております。昨年はミナミだけで900名の方が参加いただいている大きなイベントになっておりますが、せっかくこの80周年の5月11日に一斉清掃をするので、5月11日以外にも秋に3団体同時期で出来れば面白い試みになるのではと考えております。

2つ目は、当会は毎年夏に学生を中心にジャズを中心とした音楽祭をしております。これのプレイベントなどを含め、御堂筋にゆかりのある楽曲を、例えば、御堂筋の沿道、先ほど申し上げましたモデル区間、道頓堀の舟旅の船の上で演奏するという事で80周年を盛り上げていきたいと思っております。

3つ目は、民間団体の大阪を描こう会さんが、観光局さんと連携して実施予定の御堂筋描こう展というのもございますので、これについてもご協力できればと思っております。

4つ目は、建設局さんの方からもご提案いただいている内容ですが、御堂筋だけでなく、いわゆる南北だけでなく面の広がり、東西の広がりということもテーマで、道頓堀川との連携した取組みについても当会と一緒に協力推進していければと思っております。ミナミ全体を考えますと道頓堀、千日前以南のモデル区間、駅前広場と当会のエリアにお

ける公的空間の活用というのが大阪市とともに活発になってきているので、この 80 周年という事業をきっかけに次の 10 年、20 年をしっかりと見据えたうえで、どういう進め方をしたらよいのかというように、単なるイベントではなく、少しでも次の方向性を考えていきたいと、当会も考えており、行政さんがこういう風に働きかけていただくことによって、エリマネ団体もそういう事を考えていこうという方向に育っていくように思いますので、ここについてはご相談を申し上げながら一緒に大阪を盛り上げていければと思っています。

ここに書かせていただいた内容については、まだ、委員会や総会での決議を受けていないので、多少変更があるかとは思いますが。最後、御堂筋として大阪として共同していくという考え方をしっかり持つことによって御堂筋の魅力や大阪の魅力が連なる発信ができるのではないかと思いますので、テーマであります官民がどのようにして公共空間を維持して活用していくかをぜひご議論いただくよう今後もよろしくお願いしたいと思います。

事務局（渡瀬部長）

ありがとうございました。今の 3 団体のお話を聞いていますと 80 周年という時だけでなく、その後の活動の広がりをめざして 80 周年をどう過ごしていくかという点でいろいろ貴重なご意見を頂いたと思います。また、大阪市では例えば道路空間、まちづくり団体では、そのパブリックスペースいわゆる各地域の部分を一体的にいろんな活用の仕方をしてはどうかみたいなご提案も頂いたと思います。これらのご提案につきまして冒頭の司会でも申し上げたとおり意見交換をしていただく時間を確保していただいていますので、活発にご議論していただきたいと考えております。

近畿地方整備局長（池田局長）

御堂筋に人が集まる空間を作っていくということの中で、一つは人が歩きやすい、もう一つは人が集まれる場所にすることが大事だと思っています。そういう意味で、場所は御堂筋の端になるが、曾根崎スクエアで人が集まれる空間が既にあるので、もう少し賑わいで使っていただくために、これを機にもっとみんなのアイデアを出していただき、それに合わせてシンポジウムを企画したらと思っています。これも関連ですが、南の端になるが、難波元町の交差点で共同溝の工事をしていたが、間もなく終了して、その工事の後にはかなり広い、交通島の巨大なものが登場しますが、ここも色々なイベントで使えるのではないかと考えており、そこをどのように使っていったらよいかを合わせて議論していただければと思います。それと先ほど成松さんからありました新橋交差点は非常に交差点自体が広いところですが、交差点ですので、通行機能の確保と折り合いはあるので、先ほどご提案があったようなものもあるが、単なる通るということではなく、集まって賑わいのまちにできる可能性があると思っていますので、そういう視点で夏のシンポジウムを活用していただけたらなと思っています。

続けてで申し訳ないが、今のお話に対しての意見であります。冒頭市長から「見える

化」という話があったが、私も今年のイベントは「見える化」を主眼にみんなで結集してやったらいいかと思います。と言いますのも、緩速車線の問題が解決するにしても沿道の商店街や、車での利用をする方との折り合いをつけないといけないという大きい問題があります。また、色々な方からご説明があったが、使えることになった空間は、民間の方に使っていただくことになりますので、その2つの意味で、「見える化」をしてこう変わるんだということを早い時期に多くの人に共有してもらうことが一番大事なのではと思います。そういった場合に、春と秋のシンポジウムが大きな節目になるのではないかと考えている。私の意見としましては、春の時には既に大まかな方針が決まっております新橋交差点から南を「こんな風になるんだ」というものについて、是非この時点でインパクトのある形でお出し頂きたい。今も出しているということもあるかもしれないが、中々「あそこがこんな風になるんだ」と色々な人に言っても、「え、知らなかった」という人が多いものですから、繰り返しインパクトのある形を出して頂き、それを一つのきっかけとして春のシンポジウムを使っていただき、秋については先ほど新橋より北の淀屋橋に向けての方向性の話がありましたが、出来たらこの秋の時には北の方も含めたイメージを打ち出していくというようなシンポジウムの内容にして、さらにはシンポジウムだけではなく何度も繰り返しやらなくてはならないと思います。それと、200mの区間をもっとスピードを上げて、「こんな風になるんだ」というように現物で見えてこない、絵に描いただけだとすぐ忘れてしまうので、そういうものを早く作るということがポイントだと思いますので、そちらのほうのスケジューリングもこの機にエンジンをかけて頂きたいと思います。

事務局（渡瀬部長）

今のご発言につきましてですが、大阪市といたしましてもミナミでモデル整備区間を整備させていただきました。大阪市といたしましても、それを早く北へ伸ばしていきたいという風に考えております。そのためには、局長がおっしゃられたとおり、折り合いをつけていく必要があります、その折り合いと、盛り上がりをもってスピード感を上げていけるのではないかと考えております。そういうことを推進していくためにシンポジウムや80周年自体を一般市民が知っていただくために、色々なところで露出をしていきながら御堂筋を盛り上げて、追い風みたいなものを作ってスピードを上げたい、そのために皆様のご協力をお願いしたいと考えておりますし、これから1年間、80周年記念事業を実施するうえで、色々なことで皆様にご苦勞、人的なことやその他諸々ご協力いただきたいと思いますので、よろしく申し上げます。

市長コメント

先ほど局長もおっしゃられていましたが、「見える化」というのが本当に大事だと思っております。例えば今プレゼンしていただいた話でいきますと、例えば千日前から難波の空間というのは緩速車線を自転車を通れる形にしました。ここについては今回の80周年事業で、賑わいの創出に向けた一定期間の取組みをやったらいいのではないかと。課題は何ですか。ここでやると決めたらいいのでは。

事務局（渡瀬部長）

課題と申しますか、市長がおっしゃったとおり、行うことは出来ます。あとは何をするかというところでございまして、今もミナミまち育てネットワークからの提案にもあったと思われませんが、地元の皆様とタイアップして、今はただ自転車が通る空間として整備をいたしました。そこを次の活用につなげることで、これがまた「見える化」だと考えていますが、そういうことも一緒にやらせていただけたらと思っております。道路を違う使い方をすることによって、道路を何らかの形で規制したり、通常お使いになられている方々に周知をするために若干ガードマンなどのコストが発生するというのが課題といえば課題ですけれども、何とか予算案で示しましたが協賛金などを集めて、そのような費用に充てていきたいという風に考えています。

市長コメント

これは南から北に上げていくという話であって、行政的な課題といえばお金の課題ということがものすごく大きいと思いますし、警察との協議ももちろんあると思っております。それを解決していくにも地元と一定の方向性というものを共有していけたらと思っておりますし、私もやはり警察という組織は、かなりトップダウンの組織だと思っているので、必要であれば私自身から本部長に直接お願いに行きます。賑わいづくりについての課題はありますが、積極的だと私は思っていますので、必要であれば私が本部長にお願いしに行つて、「やる」ということをやりたいと思っています。それからもう一つはやっぱりお金がないというのが、課題になってくると思いますが、このお金の集め方は、誰がどう出すかということについて、詰めていただけたらと思う。必ずベネフィットが生じると思っておりますので、「見える化」というのはある意味、受益と負担を明確にするのが大事だと思つていて、一定の利益を得られるところに一定の負担をお願いしてやっていくのは当然だと思つていて、その仕組みを打ち立てられないのか。サポーターズ制度の提案もありましたが、まずはやっぱり行政とエリアマネジメント団体というか当事者が、こうしたいという明確な方針を示して、それを共有して、そこからの話かなとも思つるので、まずは当事者が積極的に汗をかいてやるというのが一番大事だと思います。お金をどこからもってくるのかということも、その利益の出るところから一定の回収ができないのかなど、目に見えた売上という利益だけでなくともベネフィットを得るところから一定出せないのかということもやっていかないと進まないのではないかと思っていますので、ここは今回エリアマネジメント団体も入っていただいていますので、出来れば方向性を共有して具体的な課題を克服するための策を、実務レベルの協議を経てその課題の整理と課題の解決をあげていただきたい。またそれに必要があれば私もやりますのでよろしくお願いいたします。

事務局（上田理事）

さまざまな事業を継続的にやっていくにはお金の方は大事になりますので、委員長からおっしゃっていただいたとおり、仕組みづくりについて引き続き様々な角度から議論して

いきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

御堂筋・長堀 21世紀の会 成松氏

お金づくりの話なのですが、私どもの会の中に別途、地権者協議会というのを作り、地権者の方たちで集まって、いろいろな話し合いを進めております。これは、我々が全部個別に1件1件回ったという努力もあり、予想以上に多くの方にお越しいただきいろいろな活発なご意見を頂戴しているという状況でございます。そういう事の中で、今出てきたような受益者負担的なものの考え方への誘導といった方向性で順次進めています。私は、御堂筋の改善に関する方向性はお金の問題に関しては2つあるとされていて、1つは地権者の負担は当然あるということ、2つ目は御堂筋というのは大阪の誇りなんだということを市民全員が持っていただくというような観点から全市民が御堂筋を盛り上げようという流れをつくっていくということのお金の集め方という2つがあると思う。その2つを進めていくということで大変重ねて恐縮ですが、御堂筋サポーターズクラブというものがあって、行政から働きかけるということよりもある種わかりやすい柔らかい方たちが大阪を活性化するために御堂筋にみんなでお金をだして、盛り上げて世界に発信しましょうというような働きかけをしていただけると非常にわかりやすく民間のお金も集まりやすいのではないかと考えています。仮称にはなるが御堂筋サポーターズクラブ的なものを作って、地元の地権者だけでお金を出すということではなく、もっと広い広がりをもって御堂筋を作っていくということの方がお金の額の問題とその気持ちの問題と両方が合わさってくると思うので、そういうやり方が一つあるのではないかと考えております。

(市長コメント)

大きな方向性として、やっぱり色々なお話を聞いていると、私自身も思うんですが、側道を結局どう活用していくのか、先ほどハイラインのお話もありましたが、昨日も局長と、安藤先生もおられて話をしていたが、ニューヨークも人気のある都市だけれどもそれでも人が集まる努力をしているという、鉄道跡の線路を使ったり緑の歩行空間などを作って、それを発信している。これは大阪もやらないといけないのではという話を昨日も公務外であるが話をしていた。まさに、現実的に考えると側道部分かと思う。遠い将来を考えると御堂筋全体が大きな公園みたいになるべきではと思っているが、今言う夢物語みたいになってしまうので、まずは側道を人が集まる・集える空間にすることが現実的にできるのではないかと考えていますし、一定の価値観の共有というのも出来つつあるのかなと思っています。エリマネ3団体の絵姿を共有したものをしっかりと打ち立てれば、先ほどおっしゃられていたいわゆる地権者だけでなく、これは大阪全体にとってプラスなのだ、大阪のまちづくりとして大阪の魅力を高めるために必要なのだと、様々な方々にも発信できると思いますので、まずはそこが大事なのかなと思います。そういった意味では、荷捌きだったり、側道を止めたなら今度は東西の道路に影響するなど、実務的な話はあると思うが、一線乗り越えられるのが、この80周年ではないのかと思うので、早い段階で認識を共有させるためにも、現実的に、試験的にやるのが重要。ミナミの200mの部分は出来ると思

ますが、それ以外でも1日2日とかではなく、1カ月単位くらいで試験的にやってみたらどうなるかとか、市民の皆様も肌で感じるができると思うので、「見える化」してくると大阪全体の発信に繋がっていくのではないかなと考えている。そのあたりを今後さらに進めさせて頂きたいと、そのためにはやっぱり一番大事なことはエリアの方が当事者としてやるというのが一番大事だと思いますのでぜひご協力お願いしたいと思います。

御堂筋・長堀21世紀の会 成松氏

側道の活用の件なのですが、側道の利活用の件を以前からお話をさせていただいておりますが、10数年前から歴代の市長様あるいは地整局長様と話す折には、御堂筋にカフェがあったらいいのというお話が必ず出てくるのですが、具体的な進展の話になるとなかなか難しいというお話で終わっていたのですが、この際に利活用の一つの活用法として、本格的なカフェみたいなものを市長がおっしゃっていただいたような数日ではなく、3か月、半年くらいのスタンスで、本格的なカフェを作って、本格的なカフェが出来たときに御堂筋がどんな風景になるかということを一歩進めて、そういう利活用方法があつて非常にいいなということをも市民の方に認識をして頂きながら前に進めていくという方法もあると思いますので、緩速車線の利活用方法の一つの活用法としましてカフェを提案させていただきたい。我々のエリアにはホテルもありますので、例えばホテル前のエリアや、昨年度で民有地の屋外空地で少しやったのですが、皆さんが見える側道でやるということが進めば非常にインパクトになるのではと思いますので、是非お願い出来ればと思います。

大阪観光局 野口氏

さきほど冒頭に市長がおっしゃっていただいた、あるべき姿ということをもまずは固めてみんなで理解するという前提のもとで、進めていくにあたって、長期の進め方のイメージのビジョンがあつてどうしたいかということではなくて、どちらかという、出来ることの蓄積型で結果、ものを進めようというように落とし込んでいっているような気がする。したがってもう少し手前のところでやるべきことを決めて、それを進めるには、どんな課題があつて、それをどう潰していくんだという、実現可能なものの積み上げではなく、目標に向かって何を潰していくべきかという進め方にここを書き換えておかないと先送りにされていくような気がしました。

2020、2025は結構近いところにあると思う。そこに絶対それをしないといけないというものがいくつかあつて、先ほどの新橋以南の話などはそれに該当すると思うが、そこに向けて何が課題で、どう潰していくべきなのかを徹底的にやるべきだということです。

近畿地方整備局長（池田局長）

先ほど市長からも側道をどうつくるかというようなお話がありましたし、成松氏からもカフェがいいんじゃないかと話もありましたが、今、ご説明頂いたことと言いますと、28ページにアクション編のイメージで5分類とありますが、道路の空間再編が①にあります。また、後ろの方の30ページにいろいろな事例が出ていますが、京都の四条通ですとか、神

戸の事例がありますが、空間再編といったときによく横断図がでてきて、どこを車道にしてどこを歩道にするかということになります。これにとどまらず、縁石やパークレットの話もありましたけども、ちょっとした道路の付属物をどうつくっていくかや、緑についてもぜひどこかで検討していきたいと思います。例えば、歩道面を全部芝生で歩けるようなつながったグリーンラインというようなものも考えられます。このように、どんな材質でどんなものを作るかという観点は非常に重要だと思う。横断図のあり方で終わらずにそういうところまで検討していくことが重要だと思うので、そういう観点を取り入れて、今までにないような道路空間、今までにないような側道になったらいいと思います。

副市長

先ほど説明にありましたとおり、過去2回の実行委員会で、本当に活発な意見が出ていて、その内、かなりの部分がここに反映されていますが、やはりまだ反映されていない部分もあるので、それはワークショップとして引き続きやっていただきたいということが報告でございます。もう一つは実行委員会で色々議論して思ったことは、3つの軸を考えておく必要があると思っていて、1つが時間であり、80周年記念事業でイベントをやり、将来のビジョンを作るとなっているが、その間をつなぐものとして将来のビジョンを予感させる期待できるようなものを今から何かスタートさせる、あるいは御堂筋があまり知られていないというのであれば記念事業を通して情報発信をどんどんしていくことも大事ですから、その時間軸に沿ってどうしていくかということです。もう1つがやはり御堂筋と東西の通りだと思う。これも先ほどの話にもありましたが、御堂筋が良くなれば、自然に東西の通りもよくなるであろうという受け身的な話ではなく、御堂筋をこうするためには東西の通りをこういう役割分担する、これがあることで初めて御堂筋のやりたいことが実現出来るということがですので、もう少し積極的な東西の通りと御堂筋のかかわりが大事だと思う。3つ目が先程、市長から話の合ったように仕掛けだと思う。記念事業のイベントとしての収入を得て実行するかというのもあるが、持続可能なシステムを考えないといけないと思う。1つ期待したいのがエリアマネジメントで、もう1つは建設局にお願いですが、道路管理者として新しい収入のノウハウを考え、他の道路と違い御堂筋にはそのポテンシャルがあると思う。それを御堂筋の賑わいとか適正な管理に使うなど、沿道のエリアにお願いする部分はお願いして、行政が自ら稼いでやらないといけないこともあるのでそれを是非お願いしたい。

事務局（渡瀬部長）

副市長からお話の合った件ですが、これまでみなさんがお話しいただいた中で、まず、ワンショットでお金を集めるということは何かすれば集めることができると思いますが、まちづくりを続け、いろんなことをするには持続的にお金を集めていかなければできないと考えており、市長もおっしゃっておられた側道というのはそこに可能性を秘めたところではないかと思っています。大阪市の知恵がないので、そこでお金が設けられる他の方法があるのかもしれないが、その空間をもう一度見直して、なんとか持続的に色々なことが出来る

仕組みを考えられないかと思っております。まだまだ、大阪市は批判的にいうと固くございまして、なかなかアイデアが湧きませんので、色々な意見やアイデアを出していただいでこうしたら、儲かるのでは、こうしたら収入が出てきて持続的に街が回っていくのではというのを一緒に考えていきたいと思っておりますのでよろしく申し上げます。そういった意味ではWS 2で、沿道だけでなくその他のまちづくり団体の方も入って議論をしていきたいと思っておりますので、そういった広がりやアイデアを結集して何とかもう一段突破出来ないかと建設局も考えておりますので、ご協力お願いいたします。

御堂筋・長堀 21世紀の会 成松氏

持続的な収入源の確保というお話が出ましたので、それに対しての具体的な成功事例を踏まえてお話させていただきたいと思っておりますが、フランスパリで非常にうまくいっている事例があります。一部の皆様方は、ご存知の方もいらっしゃると思いますが、日本ではM C D e c a u x、フランスではJ C D e c a u xという会社ですが、これはパリ市と協定してシャンゼリゼの中に唯一広告の権限を持ち、シャンゼリゼの広告を一手に仕切っており、そこであがった収益を行政の方に還元しているというような成功例があります。日本ではM C D e c a u xが成功していますが、成功事例としては皆さんご存知かもしれませんが、バスストップです。大阪では綺麗なバスストップをタダで作るかわりに10年間のメンテナンスをすることで運営すると、そこから上がってきた収入の一部をたしか交通局に入れるというシステムです。それを御堂筋上でも同じような形での展開ということが出来れば、例えば、御堂筋の側道の中央の緑地帯のところにもそういう広告看板を出せる権限を譲与して頂くということで、安定的な収入源の一つとするということもあるのかと思うので案として提案させていただきます。

<意見交換>

浪速区長

前回のときに観光局長の方からもお話がありまして、90年、100年に向けてどういったものを残していくのかというようなことをお話があったように思います。私もふと考えますと、年齢はちょうど50歳です。100周年に向けて考えると20年後は70歳となりますが、その時に現役になれる方は、おそらく今の20代とかもしくは10代の人たちなんかは現役になっていかれると思っておりますので、将来に向けた子供たちとか若い人たちの御堂筋に対する考え方、意見、将来像みたいなものも広く募集をさせていただいて、将来ビジョンに入れていただけたらと思います。街に人を巻き込んでいかないと、なかなか街というものは変わっていかないが、若い人たちをどのように巻き込んでいくかということ、若い人たちの関わる心、関心を御堂筋というものに対してまず、持って頂かないとそのまま東京や別の都市に行ってしまうということもあるでしょうから、若い時に自分たちも一生懸命、御堂筋のことについて考えたことがあるとか、というようなことを作ったうえで、100周年に向けた動き、将来の御堂筋の活用の仕方とかいうものを、その時の現役世代の方にも考えていただく場が必要ではないかと思っている。あと、よく昔タイムカプセルというのを

学校の校庭に埋めたりとかして、先日も閉校した学校のタイムカプセルを掘り出したのですが、校舎の建て替え等があったため3つ埋めたうちの1つが出てこなかったというようなこともありますので、現実にはタイムカプセルを埋めるのではなく、仕組みの中に、例えばこの時表彰された方々の意見を20年後にまた議論するとかというような仕組みが出来ればいいのではないかと考えております。あと、先日野口さんとも話していたのですが、イチヨウ並木もそろそろ、木も後何十年生きていくのかも分からないので、そのメンテナンかも考えていかないといけないのではないかと考えています。

栗本氏

3点ほどありまして、まず1つは、御堂筋を考えると「誰のために」というのと、「いつ」という視点をもう一度見直す必要があるかと思えます。誰のためにというのが住民ビジネスマンというようなところと、来外者の方である外国の方々とかということなのですが、住民ビジネスマンとして毎日ガスビルに通っていますので、私の視点からも申しますと、まず、どのようになってほしいかという誇りを持つためには何が欲しいかということです。実は、私は入社する時に御堂筋のOLになりたいというような憧れでありまして、やっぱりその当時の御堂筋を思い起こすと非常に街が美しくイチヨウ並木の四季が美しかった、そんな時期だったのですが、それは、叶いませんでして10年後くらいにやっと御堂筋の住民になれたわけでございます。今考えてみますとやっぱり日本の1つの個性でもある四季というのがイチヨウ並木から感じ取られるものが格別に減っておりまして、5月から夏の新緑というのも非常に乏しくなっており、そしてイチヨウ並木の色付きを感じる間もなく、落ちてしまい、葉がないところにイルミネーションがあつてそういう四季を感じる状況が悲しい状況になってしまっていて、美しい街であるためには素顔を綺麗にすべきだと思います。その素顔というのが道であり誇りである御堂筋のイチヨウなので、まずは素顔のところでどう栄養素を入れていって、女性がメンテをするように美しいものにしていくことで、美しい気持ちの街ということで住民の誇りになるのではないかとということが1つです。来外者にとっては遊び場、憩いの場としての存在感ということになるのだと思うのですが、なかなかこれが難しく、それぞれご努力はされていますが昔あった御堂筋パレードのような爆発的な発信力があるものというものが無くなっています。その中で、イケフェスなども結構東京の方に認知されているのですが、もう少し、美しい気持ちにプラスαの部分で、何か必要なのかなと感じました。また、先日偶然、東京で大阪のことをご紹介する機会がありまして、東京の方というのが本当に大阪のキタもミナミも知らない方が結構いらっちゃって、その中で御堂筋を聞いたことあるといった反応の方が半分くらい、そして少しでも大阪で勤務された方とか在住された方は、御堂筋の話をしてもらうとすごく喜ばれる。反応が2極分割したんですけども、先ほどの関一さんの話にもありましたが、どういう経緯を辿って今があるのかという御堂筋の物語を大阪人をはじめ関東の方、日本全国に発信していくという事も1つの必要性ではないかと、そして大阪のまちにとって御堂筋の役割という事をもう一度認識していく必要があるのかなとも感じたということが2点目です。

3点目ですが、お誕生日に関しては、シンポジウムの後の夜に式典が決まっていますけれども、シンポジウムと式典にメディアが来た時に、そのまま実況中継で街に流れ込んだ時に、街でどこでも何かやっていて、みんなが「御堂筋 80 歳おめでとう」というのが合言葉になって、まちづくりの沿道の方が、それぞれの街で側道も可能であれば使いながら、出来る限り御堂筋でこの日 5 月 11 日だけは許容してもらってお祭りをしていって、みんな「おめでとう」と言っているというそんなことがあるだけでキックオフになると思います。5 月 11 日のキックオフから初めて第一歩というような認識で 2020 年、2025 年に向けて進んでいくのかなという気がしておりますので、5 月 11 日をもう少し工夫してにぎやかなものにできないかなということを思っております。

市長

確かに 5 月 11 日は本当のキックオフで、日にちは無いのですが、ちょっと今の意見も踏まえて考えていただければと思います。

橋爪先生

心齋橋で生まれ、船場のまちづくりの関係で、船場に事務所を構えております。御堂筋をわたり続けて 56 年。母親は昭和 8 年生まれで、80 歳代。御堂筋も 80 年となり、3 世代目くらいになります。

船場で言いますと、オフィス街ではなくて、この間、どんどんタワーマンションが竣工しました。私も都市計画審議会の部会長として、規制緩和のお手伝いさせていただきましたが、ホテルもレジデンスも沿道が増えてきております。ですので、新しく来ていただいた方に、いかにわが街の魅力を知ってもらうのか、都心居住が素晴らしいものだと伝えるようなことが重要。さきほど玉置区長がおっしゃったように、子供たちや次世代の人たちに御堂筋 80 周年を祝っていただけるようなこともあればなと思います。将来ビジョンに関しまして 3 点申し上げたいと思います。

1 点目は「空想力」や「想像力」が必要であるということ。10 年先や 20 年先をビジョンするということは、見えていないものを見るのでかなり、想像力を豊かに発想しなければならない。要は、20 年前にスマートフォンがこんなに普及することは誰も想像できていません。10 年前くらいなら今の状況はある程度見えていたかもわかりません。御堂筋の側道の歩行者空間化に関して、本当に 20 年前くらいから色々な方が色々な形で提案をしていますが、道路構造を考えれば無理だと言われてきた。ようやくそれを我々は形にすることになる。そのような考えれば、20 年先を思えば、今では無理なことをイメージすることも必要であろうと思う。おそらく自動車はすべて自動運転で、通信技術も断然変わっている。いまとは全然違う道路が、20 年後は実現されているだろう。いっぽう 10 年後くらいはどうかというと、今見えている技術力でサポートされる道路というものを考えていくということがあるのかなと思います。また、財源についても 10 年前はクラウドファンディングなんてものは全然世の中になかったものができているので、従来型の寄付の集め方ではないものを考えなければいけない。例えば 10 年後、屋外広告物に関してもおそらく新しい広告のあり方、要は道を歩く人々に対して今とは異なる広告が流行していると思われま

す。我々は未来の社会はこうなると想定しながら、我々はビジョンを考えるということが重要。

2点目は「価値」を見出さなければいけない。御堂筋は、設計当初からいろいろな議論がございました。例えばイチヨウ並木にしたのも、市の職員の方が、東洋の大都市の目抜き通りなので、東洋原産のイチヨウにすべきだと主張された。そのほうが四季折々の季節感彩が出るだろう。プラタナスとかそういうヨーロッパ向きではないだろとアジア原産のイチヨウにするべきだということで相当頑張られたことで、価値が付与された。我々もストリート全体に新たな価値をつけなければいけない。私は御堂筋のフェスティバルモール化と言っていますが、しばしば御堂筋でお祭り騒ぎが起きるようなそんな通りにするべきではないか、我々の先輩が「大阪築城 400 年」のときに、70 年万博のお祭り広場の雰囲気を出そうということで、オープニングの催事として始めたのが最初の「御堂筋パレード」でした。国際色豊かなお祭りの場に御堂筋を変えるということ、すなわち国際性という付加価値を御堂筋に付けたのが「御堂筋パレード」の当初の設定であります。ぜひ今回もこの当初に設定されたアジアの大都市にふさわしい、付加価値付けを是非とも形にさせていただければ、一緒にできればなと思っております。と申しますのも、歩行者優先の目抜き通りをかたちにする事業は、世界中いたるところ各都市が今やっております。ひとつのベンチマークがバルセロナにあり、メルボルンなども「バルセロナモデル」を意識した。最近ではポートランドがかなり先行的な新しい試みをしていますので「ポートランドモデル」と呼ぶべきものもあります。世界中の都市が、バルセロナやポートランドを見て、そこに付加価値をつけて各都市での歩行者空間化をすすめている。先行事例はこうだが、我々はこういう風に新しい価値をつけて違うやり方をやるんだという、いわば「大阪モデル」というのを生み出して、世界中の道路の専門家とかまちづくりの専門家が大阪に来てもらえるような形になればと思います。我々はベンチマークの都市を超え、大阪風アレンジし、個性化することが必要です。

3点目としては、やはり「物語性」を再構築するべきだと思います。特に御堂筋という名前は、我々は大阪の人間なので「御堂筋」と感慨もなく呼んでいますが、「御堂」という言葉を選んだということに先人の知恵があります。江戸時代にあって大阪にあってランドマークであった巨大な建物群であった北御堂・南御堂を、通りの名前に課している。都市を代表する宗教的な施設を目抜き通りの名の冠としている点は、世界の人にも説明がしやすいかと思えます。両御堂の存在を、うまく生かすべきだと思います。あと御堂筋の出来た昭和 12 年のときは、昭和 8 年に 3000 人が亡くなるか、行方不明になった室戸台風の関西大風水害の復興途上にあって、市民の力を集めて作り上げた復興のシンボリックな意味合いもあった。関一市長は、この関西大風水害の復興事業のために国の方に陳情に行かれて、その過労で亡くなられた。またイチヨウ並木でいいますと、戦災でかなり焼けたけども、何本か焼け残って生き残った木々もあります。私たちは、そういう物語を語り続けることができる。是非とも御堂筋に先人が託した様々な想いを引き受けつつ、そのうえで我々は未来へこういう風に、新たな御堂筋を作り上げようという強いメッセージを持ちたいと思います。

道幅だけの話とか世界の目抜き通りと比べてどうかだけではなくて、世界の目抜き通りがどうであろうが、我々の御堂筋はこういう道でありたいという強い想いをもって、今回の事業及びビジョンづくりを進めていければと思いますのでよろしくお願いいたします。

市長

80周年事業ということでやっぱり、橋爪先生や栗本先生からもありましたが、過去にこれだけ素晴らしいものを作り沿道の方が築き上げたということがやっぱり一番大きいのかと思います。イチヨウ並木もそうですし、他にはない個性があって、それが御堂筋の魅力になっていると思いますので、そこはしっかりリスペクトして、それをさらにどう発展させるかが一番大事かと思っていますので、将来に向けて80周年事業は単発のものにするのではなく、まさに将来のビジョンの見える化というものをやっていきたいですし、将来ビジョンの共有というのを是非やっていきたい。ただ、その仕組みがどういったものかいいのは事務方で詰めていっていただきたいと思いますし、ワークショップなどいろいろなところで詰めていくべきだと思うのですが、今回の80周年事業では具体的に何か将来がみえるようなものを現に実行していくことを是非やっていきたいと思います。そのためには皆さんの色々なご意見とご協力が絶対必要だと思いますので、よろしくお願い申し上げます。